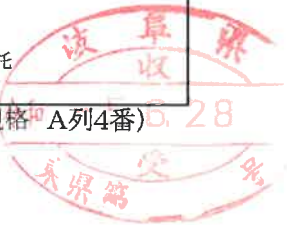


様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
2023 年 6 月 28 日	
岐阜県知事	
(市長) 殿	
提出者	
住 所 愛知県みよし市黒笹町丸根1099-20	
氏 名 株式会社アドマテックス 代表取締役 中野 修	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0561-33-0215	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社アドマテックス 土岐事業所
事業場の所在地	岐阜県土岐市泉町久尻字北山1431-22
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	21：窯業・土石製品製造業
② 事業の規模	売上高：182億円（全社）
③ 従業員数	248 名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥：中間処理業者へ委託 廃プラスチック：中間処理業者へ委託 金属くず：中間処理業者へ委託 紙くず、廃アルカリ、廃油：中間処理業者へ委託 木くず：中間処理業者へ委託 蛍光灯、乾電池（水銀使用製品産業廃棄物）：中間処理業者へ委託

（日本産業規格 A列4番）



## (第2面)

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

経営者(代表取締役)。

環境管理責任者。

環境事務局。

各部門長(各部環境責任者)。

- ・ 特別管理産業廃棄物管理責任者。
- ・ 各部環境委員。

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度( 2022 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	排 出 量		t
	(これまでに実施した取組) 別紙参照		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	排 出 量		t
	(今後実施する予定の取組) 別紙参照		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 種類ごとに分別
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 種類ごとに分別

## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	未集計 t	— t
	(これまでに実施した取組) ・汚れていない緩衝材を再利用		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	未集計 t	— t
	(今後実施する予定の取組) ・緩衝材の再利用の継続		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ・該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ・該当なし		

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） ・該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） ・該当なし		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	別紙参照	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量		t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量		t
	（これまでに実施した取組） 別紙参照		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙参照	t
	再生利用業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t
	(今後実施する予定の取組) 別紙参照		
	※事務処理欄		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



別表1”産業廃棄物の排出の抑制に係る管理体制に関する事項”及び”産業廃棄物の処理の委託に関する事項”

排出量(t)

所出量

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項						
①現状	前年度実績	産業廃棄物の種類	廃油	木くず	蛍光灯(水銀使用製品)	乾電池(水銀使用製品)
		排出量(t)	13.555	5.550	0.040	0.080
		これまで実施した取組	有価化	木パレットの繰り返し利用	LED照明への移行	水銀不使用の乾電池の推進
②計画	今年度目標	排出量(t)	13.419	5.495	0.040	0.079
		今後実施する予定の取組	有価化の継続	木パレットの繰り返し利用	LED照明への移行	水銀不使用の乾電池の推進
産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
①現状	前年度実績	全処理委託量	13.555	5.55	0.040	0.080
		優良認定処理業者への処理委託量	13.555	0	0.040	0.080
		再生処理業者への処理委託量	0	0	0	0
		認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0
		全処理委託量	13.285	5.440	0.039	0.078
		優良認定処理業者への処理委託量	13.285	0	0.039	0.078
②計画	今年度目標	再生処理業者への処理委託量	0	0	0	0
		認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0
		全処理委託量	0	0	0	0